

訪問教育について

訪問教育とは、特別支援学校における教育の一形態で、通学して教育を受けることが難しい児童生徒に対して、教員が家庭などを訪問して教育を行うものです。今年度は、中学部生1名、小学部生2名の計3名がそれぞれの学習に励んでいます。

1 目標

- (1)さまざまな活動を通してものや人と接する経験を増やし、興味関心の幅を広げる。
- (2)児童生徒の地域における豊かな生活づくりを積極的に支援する。

2 授業日数及び授業時数

- ・年間35週で、週3回、年間105日(210時間)行う。
- ・1回の訪問時間は2時間で、午前か午後のどちらかで行う。
- ・オンライン授業
同学年の授業(音楽など)に参加する
- ・スクーリング
同学年の授業や学校行事・学部行事などに参加する。
(目標:集団での活動を通して経験を深め、興味・関心の幅を広げる。)
※スクーリングに参加する際には、必ず保護者が付き添うことになっています。

3 学習について

- 自立活動
・個々の児童生徒の実態に応じて、五感を刺激する感触遊び、揺れや振動、光を感じる遊び、ふれあい体操、課題別学習などを行う。

○訪問授業の流れ(例)

学習活動	内容
健康観察	・呼びかけ、表情の観察、身体に触れるなどによる観察、バイタルチェックなど
1 始めの会	・あいさつ、始めの歌、呼名、日にち・天気調べ、今日の予定
2 自立活動	・「体操をしよう」、「足湯をしよう」、「スイッチで動かそう」など ・「おはなしを聞こう」、「音楽を楽しもう」、「光で遊ぼう」など ・「カレンダーをつくろう」、「粘土でつくろう」、「季節を感じよう」など
3 終わりの会 健康観察	・今日の振り返り、終わりの歌、あいさつ ・呼びかけ、表情の観察、身体に触れるなどによる観察、バイタルチェックなど

- ・教師と児童生徒の一対一を基本とします。授業の内容によっては、複数訪問や家族などの協力による学習(誕生会・散歩など)を行います。